

平成 21 年度  
(2009 年度)

# 標準化活動報告書

抜粋版

抜粋版

平成 22 年 4 月

社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

標準化センター

■ 目次 ■

1	標準化センター	3
1.1	はじめに	3
1.2	標準化センター関係委員一覧	5
1.3	標準化センター幹事会	10
1.4	JBMS 推進小委員会	12
1.5	ユーザーインターフェイスデザイン・プロジェクト (UIDP)	13
1.6	アクセシビリティ・プロジェクト	15
1.7	カラーマネジメント・プロジェクト	17
1.8	JIS 原案作成委員会	19
2	部会及び委員会の標準化活動	20
2.1	複写機・複合機部会	20
2.2	ページプリンタ部会	23
2.3	カード及びカードシステム部会	23
2.4	データプロジェクター部会	23
2.5	デジタル印刷機部会	24
2.6	コミュニケーションボード部会	24
2.7	シュレッダ部会	24
2.8	環境委員会	25
2.8.1	製品環境配慮小委員会・騒音規格検討 WG	25
2.8.2	エミッション評価法検討 WG	26

## 1 標準化センター

### 1.1 はじめに

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会 (以下、JBMIA と略す。) 標準化センターとして 9 回目 (平成 9 年標準化委員会から通算 13 回目) の平成 21 年度活動報告書を、ここに発行する。今年度もセンター傘下の各プロジェクト・小委員会等で、活発な活動を行っており、その成果の概要を次に示す。

#### (1) 幹事会の主な活動を次に示す。

- ・2007 年度標準化戦略をベースとした現在の標準化センターの活動を更に有意義なものにするために「標準化センター戦略検討」として、活動の位置付け、新しい標準化プロジェクト・テーマの抽出、他領域との連携、をキーワードに検討を進めている。この活動の一環として、傘下の 3 プロジェクトの初めての活動報告会を、標準化会議委員を主な対象として 3 月 10 日に開催し、活動内容・状況の理解を得た。
- ・JBMIA フォーラム 2009 (6 月 5 日大手町サンケイプラザ) にて、標準化センターより「デジタルフォトプリントの画像保存性に関する国際規格の動向と画像保存性 WG の活動紹介」(カラーマネジメント・プロジェクト)、「アクセシビリティ国際標準改訂動向とアクセシビリティ・プロジェクトの活動紹介」(アクセシビリティ・プロジェクト) の 2 テーマの発表を行った。

#### (2) JBMS 推進小委員会の主な活動を次に示す。

- ・JBMS の維持管理及び運営に関する基盤整備の一環として、規格・標準報告書類のデータベースの整備を実施した (冊子が原本である規格類の電子化、廃止標準類の電子データベース化、Web 掲載情報の改訂等)。
- ・部会・委員会から JBMS 及び JB MIA-TR 原案 10 件の制・改正申請があり、これらの審議を実施した。内、6 件については発行と Web 掲載を行った。

#### (3) ユーザーインターフェイスデザイン・プロジェクト (UIDP) の主な活動を次に示す。

- ・ステアリングチーム及び UI 用語 WG の協業の下、ビジュアルランゲージ WG で JB MIA-TR-17 (操作画面のアイコンガイドライン) をまとめ、制定した。
- ・UI に関する標準化テーマとして、節電モードと定期交換部品名称について検討を実施した。節電モードは情報の展開に留め、定期交換部品名称は UI 用語 WG に標準化の可能性検討を依頼した。
- ・新規図記号の標準化として、平成 20 年度に実施したユーザー調査結果の精査を実施中である。
- ・昨年、第 1 回会合を開催した関連団体 (JEITA、CIPA) の図記号関連 WG との情報交換会を 2010 年 2 月に開催し、相互に活動情報を紹介し共有した。
- ・平成 20 年度の UI 用語調査結果を含めた機能名称 16 用語、部位名称 4 用語及び「長音の扱いに関するポリシー」を追加した JB MIA-TR-2:2009 (改正) を発行した。
- ・UI 用語調査としてカタカナ表記用語のユーザー調査 (有効回答数 820) を 2010 年

2月に実施した。標準化の検討を平成22年度に行う予定である。

(4) アクセシビリティ・プロジェクトに関する主な活動を次に示す。

- ・JBMS-80（高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－色覚の多様性に配慮した色の組合せ方法と表示方法）と、点字表示を事務機器へ取り込むためのJBMIA-TR-16（高齢者・障害者配慮設計指針－点字の略語表記－事務機器の操作部）を制定した。
- ・弱視の当事者や団体を訪問調査し、弱視の方々が操作画面を操作する際に頭部の妨げにならない必要空間寸法を抽出した。JBMIA-TR化を行う予定。
- ・CEATEC JAPAN 2009（10/6-10/10@幕張メッセ）のアクセシビリティ PLAZA（情報通信アクセス協議会主催）への出展を昨年に引き続き実施した。今年度はISO/IEC JTC 1/SC 17（カード及び個人識別）及び同 SC 35（ユーザーインターフェイス）からも出展が行われた。
- ・報知音に関する規格のJIS S 0013:2002と、JBMS-71:2006（事務機器－報知音）との整合検討を、主管の（財）共用品推進機構と行った。JISに規定が無いJBMS-71の「入力無効音」規定をJIS S 0013改正原案に追加した。
- ・JIS X8341-5:2006（高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第5部：事務機器）の改正原案検討のため、同規格とISO/IEC 10779:2008（情報技術－高齢者及び障害者のための事務機器の使いやすさの指針）との整合部分を、BRM（Ballot Resolution Meeting）でのコメントから抽出した。

(5) カラーマネジメント・プロジェクトの主な活動を次に示す。

- ・ISO/IEC JTC 1/SC 28（オフィス機器）釜山総会（6月）で、AWG/PWG5（Office Colour Working Group）の正式WGへの昇格が承認され、仲谷文雄氏（富士ゼロックス）がWG5コンビナに、宮下隆明氏（リコー）が同セクレタリーに就任した。
- ・カラーマネジメント・プロジェクトでWG5（Office Colour Working Group）新業務項目候補のNWI-0（オフィスカラー用語）の既存標準の調査を実施し、結果をWG-5へ展開した。
- ・画像保存性WGは、開発中の国際規格8件に関して、ISO/TC 42（写真）/WG5/TG2及びTG3の国際会議（10月@東京）出席を含め、JBMIAとしての意見集約と国内団体間の調整を実施。耐光性、耐熱性、耐オゾン性、耐湿性、テストターゲット及び寿命規定それぞれの技術課題に対する解決策の検討/提案を逐次行った。

(6) 平成21年度のJIS原案作成活動を次に示す。

- ・JBMIAが原案作成団体で、平成21年度に発行となったJISは3件。
- ・平成20年度及び平成21年度JIS原案作成公募に応募した案件の内、6件の規格原案を提出し、日本規格協会での規格調整分科会審議を終了した。
- ・平成21年度JIS原案作成公募に応募した計4件の原案作成委員会及び同分科会の活動を推進中である。

## 1.8 JIS 原案作成委員会

### (1) 活動概況

過年度に JIS 原案作成公募に応募した平成 19 年度公募 JIS 3 件、(同) 20 年度公募 JIS 4 件 計 7 件の活動状況を把握すると共に、各 JIS 原案作成委員会の協力の下で、発行に向け活動を推進した。

- ・ JIS 制定或いは改正が官報告示となった原案 ; 3 件 (詳細は次項を参照)。
- ・ 日本規格協会/規格調整分科会 (以下、規調会と略す) 審議が終了した原案 ; 3 件
- ・ 日本規格協会へ原案提出済み ; 1 件 (但し、対応国際規格の FDIS 承認遅れで規格調整分科会審議を保留中)

また、平成 21 年度 JIS 原案作成公募へ 5 件応募し、活動を開始した。更に公募外の自主提案 2 件の原案作成活動を推進中である。

技料出版